

平成 1 7 年度マスターセンター補助事業

『観光立県・和歌山県の観光の現状と課題』
に関する調査研究報告書

平成 1 7 年 1 2 月

社団法人中小企業診断協会和歌山県支部

はじめに

平成16年7月7日「紀伊山地の霊場と参詣道が」がユネスコの世界遺産リストに登録された。

その地域は和歌山県・三重県・奈良県にまたがるが、大半は和歌山県内の遺産といっても過言ではない。

紀伊山地は、神話の時代から神々が鎮まる特別な地域と考えられていた。中国から伝来した「仏教」も、深い森林に覆われた紀伊山地の山々を阿弥陀仏や観音菩薩の「浄土」に見立て、仏が持つような能力を拾得するための山岳修行の舞台としました。その結果、紀伊山地には、それぞれの起源や内容を異にする「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」の三つの「山岳霊場」とそこに至る「参詣道」が生まれ、都をはじめ全国から人々の訪れる所となり、日本の宗教・文化の発展と交流に大きな影響を及ぼした。

『紀伊山地の霊場と参詣道』は、三重、奈良、和歌山の三県にまたがる「紀伊山地の自然」がなければ成立しなかった「山岳霊場」と「参詣道」、及び周囲を取り巻く「文化的景観」が主役であり、日本で唯一、世界でも類を見ない資産として価値の高いものである。

登録を機会に和歌山県の各地で様々なイベントやキャンペーンが実施されているが、特に、平成16年10月から12月にかけて、和歌山県とJR各社等のタイアップによるキャンペーンは、県内各地域のキャンペーンと相まって観光客の誘致を促している。

和歌山県は観光産業による地域活性化を図ってきたが、過去の入り込み客は横ばいか、やや減少傾向にある。

和歌山県支部では、「紀伊山地の霊場とその参詣路」が世界遺産に登録された結果、どのように変化し、今後どのようになっていくかを調査・研究することとなった。

そのために、県下の観光客の入り込み状況の推移と世界遺産登録後の変化、同時に、世界遺産登録関係市町の観光に対する取り組みを調査し、課題を抽出し、今後の観光立県としてのあるべき方向性を見出していきたい。

社団法人中小企業診断協会

和歌山県支部 支部長 奥村博志

目 次

はじめに

第1章 和歌山県内観光客の状況	1
1. 和歌山県内の年別観光客数の推移	1
2. 世界遺産登録前後の和歌山県の観光客数の比較	1
第2章 地域別の観光客入り込み数	2
1. 登録に関係する1市10町別年別観光客入り込み数の推移	2
2. 登録に関係する1市10町年別観光客の推移(平成10年＝100対比)	4
3. 登録に関係する1市10町の世界遺産登録前後の観光客数の比較	5
第3章 世界遺産登録後のイベント	8
1. 和歌山県大型観光キャンペーン(和歌山デステイネーションキャンペーン)	8
2. その他の平成16年度世界遺産登録関連の主な行事	8
3. 世界遺産登録関係市町の観光振興対策	9
世界遺産登録関係市町の観光振興対策実態調査へのご協力お願い	14
貴地域の観光振興対策について	15
第4章 観光実態調査結果	17
1. 旅行の形態	17
2. 来訪回数	18
3. 交通手段	18
4. 来訪目的	18
5. 和歌山選択理由	19
6. 今回の旅行の情報源	19
7. 和歌山県内での消費額	19
8. 観光ルート	20
9. 今後してみたい観光・レジャー	21

10. 宿泊先の予約	2 1
11. 宿泊先決定時の重視点	2 1
12. 調査結果のまとめ	2 2
第5章 観光客動向調査	2 3
第6章 第三者機関調査による「和歌山・世界遺産の位置づけ」	2 5
第7章 各種調査からみた問題点	2 8
1 観光実態調査および観光客動向調査からみた問題点	2 8
2. 「観光地魅力度調査」からみた問題点	2 9
第8章 観光産業の経済的影響・効果	3 0
1. 平成16年度観光客増加による経済波及効果推計	3 0
第9章 和歌山県の観光振興のための課題と提案	3 5
1. 遺産登録関連地域へのアンケート結果からの問題点	3 5
2. 和歌山県に必要な観光振興対策（提言）	3 5
おわりに	4 4

第1章 和歌山県内観光客の状況

1. 和歌山県内の年別観光客数の推移

平成10年から16年にかけての7年間における和歌山県内への観光客数は、平成14年、15年に落ち込みを見せたが、7月に世界遺産に登録が行われた平成16年には、前年より1,522千人増加の30,891千人となり、平成10年を100とする対比で103.8となった。

(表1-1) 和歌山県内の年別観光客数の推移

(単位：千人)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
日帰り客	23,220	23,791	23,958	24,662	24,705	24,024	25,437
H10年対比	100.0	102.5	103.2	106.2	106.4	103.5	109.5
宿泊客	6,061	5,889	5,803	5,598	5,477	5,345	5,454
H10年対比	100.0	97.2	95.7	92.4	90.4	88.2	90.0
総数	29,281	29,680	29,761	30,260	30,182	29,369	30,891
H10年対比	100.0	101.4	101.6	103.3	103.1	100.3	105.5

2. 世界遺産登録前後の和歌山県の観光客数の比較

世界遺産登録が和歌山県内への観光客数にどのような影響を与えたかを検証するために、世界遺産登録前(平成16年6月以前)と登録後(平成16年7月以降)の観光客数を前年同期と比較してみると。世界遺産登録前は、宿泊客は前年実績を下回っており、日帰り客についても2.5%の微増であった。登録後をみると、日帰り客は8.9%増加しており、宿泊客についても4.2%の増加となっている。

台風が頻繁に通過するなど、平成16年夏期は天候不順であったにもかかわらず、登録後は観光客が増加している。

(表1-2) 登録前後の和歌山県の観光客数比較

(単位：千人)

	1月～6月 (世界遺産登録前)			7月～12月 (世界遺産登録後)		
	15年	16年	前年比(%)	15年	16年	前年比(%)
日帰り客	11,433	11,724	102.5	12,591	13,713	108.9
宿泊客	2,392	2,378	99.4	2,953	3,076	104.2

第2章 地域別の観光客入り込み数

1. 登録に関係する1市10町別年別観光客入り込み数の推移

今回、ユネスコの世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」は、霊場としては「吉野・大峯」(奈良県)・「熊野三山」(和歌山県)・「高野山」(和歌山県)であり、参詣道としては「大峯奥駈道」(奈良、和歌山県)・「熊野参詣道中辺路」(和歌山県)・「熊野参詣道小辺路」(奈良県、和歌山県)・「熊野参詣道大辺路」(和歌山県)・「熊野参詣道伊勢路」(三重県、和歌山県)・「高野山町石道」(和歌山県)である。

和歌山県ではこれらの世界遺産登録関係市町として、高野町・九度山町・かつらぎ町・白浜町・中辺路町(現、田辺市)・日置川町・すさみ町・那智勝浦町・新宮市・熊野川町・本宮町(現、田辺市)の1市10町を取り上げているので、これら1市10町の平成10年から16年の年別観光客入り込み数の推移を見ることにする。

高野町

日帰り客は、年毎に多少の増減はあるが増加している。16年は前年に比べ260人増加、10年と比べると42.0%の増加である。宿泊客は、微増傾向である。16年は前年に比べ43人増加、10年と比べ16.1%の増加である。

九度山町

日帰り客は、年毎に多少の増減はあるが減少か横ばい状況である。16年は前年に比べ10人増加、10年と比べると0.7%の増加である。宿泊客は、やや減少傾向である。16年は前年に比べ1人増加しているが、10年と比べ22.2%の減少である。

かつらぎ町

日帰り客は増加している。16年は前年に比べ190人増加、10年と比べると388.2%の大幅増加である。この原因は、従来かつらぎ町は主要観光地でなかったが、高野山町石道や丹生都比売神社の世界遺産登録により、その観光客比率を高めたものと考えられる。

しかし、宿泊客は、14年、15年は増加しているが横ばい傾向である。16年は前年に比べ5人減少、10年と比べ5.0%の減少である。

白浜町

日帰り客は減少傾向である。16年は前年に比べ8人増加しているが、10年と比べると7.3%の減少である。宿泊客も減少傾向である。16年は前年に比べ2人減少、10年と比べ5.5%の減少である。

中辺路町(現、田辺市)

日帰り客は増加傾向である。16年は前年に比べ326人増加、10年と比べると125.7%の大幅増加である。宿泊客は減少している。16年は前年に比べ3人増加であるが、10年と比べ45.8%

の大幅減少である。

日置川町

日帰り客は増加傾向である。16年は前年に比べ25人増加、10年と比べると41.9%の増加である。宿泊客は減少している。16年は前年に比べ増減0であるが、10年と比べ31.3%の減少である。

すさみ町

日帰り客は減少傾向である。16年は前年に比べ18人減少、10年と比べると35.9%の増加である。宿泊客も減少している。16年は前年に比べ12人減少であり、10年と比べ33.3%の減少である。

那智勝浦町

日帰り客は11年以降減少傾向であったが、16年は増加し前年に比べ60人増加しているが、10年と比べると0.1%の微増である。宿泊客も日帰り客と同様な傾向である。16年は前年に比べ21人増加しているが、10年と比べ17.2%の減少である。

新宮市

日帰り客は増加傾向であるが、宿泊客は減少傾向である。10年と比べると日帰り客は6.4%の増加傾向であり、宿泊客は15.6%の減少傾向である。

熊野川町

日帰り客は減少傾向であり、16年も前年に比べ14人減少している。10年と比べると16.8%の減少である。宿泊客は絶対数が少なく増減を繰り返している。16年は前年に比べ3人減少しているが、10年と比べると28.6%の増加である。

本宮町(現、田辺市)

日帰り客11年は減少しているが、その後は増加傾向である。16年は前年に比べ542人増加で、倍増以上の増加である。10年と比べると144.6%の大幅増加である。宿泊客は減少傾向であるが、16年は前年に比べ17人増加している。10年と比べ23.3%の減少である。

(表2-1) 登録に係る1市10町年別観光客入り込み数の推移

(単位：千人)

		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
高野町	日帰り客	792	788	810	836	804	822	1,082
	宿泊客	323	317	329	336	329	332	375
	総数	1,115	1,105	1,139	1,172	1,133	1,154	1,457
九度山町	日帰り客	142	136	124	127	99	113	143
	宿泊客	9	8	7	7	6	6	7
	総数	151	144	131	134	105	119	150
かつらぎ町	日帰り客	136	161	385	213	442	474	664
	宿泊客	20	22	19	22	25	24	19
	総数	156	183	404	235	467	498	683

白浜町	日帰り客	1,416	1,295	1,303	1,305	1,316	1,305	1,313
	宿泊客	2,069	1,985	2,017	1,983	1,943	1,957	1,955
	総数	3,485	3,280	3,320	3,288	3,259	3,262	3,268
中辺路町 (現、田辺市)	日帰り客	304	484	309	293	298	360	686
	宿泊客	24	25	20	17	11	10	13
	総数	328	509	329	310	309	370	699
日置川町	日帰り客	86	89	95	98	100	97	122
	宿泊客	33	28	32	30	31	23	23
	総数	119	117	127	128	131	120	145
すさみ町	日帰り客	262	309	253	249	215	186	168
	宿泊客	69	67	68	69	64	58	46
	総数	331	376	321	318	279	244	214
那智勝浦町	日帰り客	869	1,048	956	873	850	810	870
	宿泊客	1,102	1,127	1,058	968	931	891	912
	総数	1,971	2,175	2,014	1,841	1,781	1,701	1,782
新宮市	日帰り客	918	939	900	890	905	903	977
	宿泊客	135	139	129	123	118	112	114
	総数	1,053	1,078	1,029	1,013	1,023	1,015	1,091
熊野川町	日帰り客	309	299	291	272	266	271	257
	宿泊客	7	9	8	7	10	12	9
	総数	316	308	299	279	276	283	266
本宮町 (現、田辺市)	日帰り客	406	324	410	416	421	451	993
	宿泊客	219	205	192	178	172	151	168
	総数	625	529	602	594	593	602	1,151

2. 登録に係る1市10町年別観光客の推移(平成10年＝100対比)

(表2-2) 登録に係る1市10町年別観光客の推移

		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
高野町	日帰り客	100.0	99.5	102.3	105.6	101.5	103.8	136.6
	宿泊客	100.0	98.1	101.9	104.0	101.9	102.8	116.1
	総数	100.0	99.1	102.2	105.1	101.6	103.5	130.7
九度山町	日帰り客	100.0	95.8	87.3	89.4	69.7	79.6	100.7
	宿泊客	100.0	88.9	77.8	77.8	66.7	66.7	77.8
	総数	100.0	95.4	86.8	88.7	69.5	78.8	99.3
かつらぎ町	日帰り客	100.0	118.4	283.1	156.6	325.0	348.5	488.2
	宿泊客	100.0	110.0	95.0	110.0	125.0	120.0	95.0
	総数	100.0	117.3	259.0	150.6	299.4	319.2	437.8
白浜町	日帰り客	100.0	91.5	92.0	92.2	92.9	92.2	92.7
	宿泊客	100.0	95.9	97.5	95.8	93.9	94.6	94.5
	総数	100.0	94.1	95.3	94.3	93.5	93.6	93.8
中辺路町 (現、田辺市)	日帰り客	100.0	159.2	101.6	96.4	98.0	118.4	225.7
	宿泊客	100.0	104.2	83.3	70.8	45.8	41.7	54.2
	総数	100.0	155.2	100.3	94.5	94.2	112.8	213.1
日置川町	日帰り客	100.0	103.5	110.5	114.0	116.3	112.8	141.9
	宿泊客	100.0	84.8	97.0	90.9	93.9	69.7	69.7
	総数	100.0	98.3	106.7	107.6	110.1	100.8	121.8
すさみ町	日帰り客	100.0	117.9	96.6	95.0	82.1	71.0	64.1
	宿泊客	100.0	97.1	98.6	100.0	92.8	84.1	66.7
	総数	100.0	113.6	97.0	96.1	84.3	73.7	64.7

那智勝浦町	日帰り客	100.0	120.6	110.0	100.5	97.8	93.2	100.1
	宿泊客	100.0	102.3	96.0	87.8	84.5	80.9	82.8
	総数	100.0	110.4	102.2	93.4	90.4	86.3	90.4
新宮市	日帰り客	100.0	102.3	98.0	96.9	98.6	98.4	106.4
	宿泊客	100.0	103.0	95.6	91.1	87.4	83.0	84.4
	総数	100.0	102.4	97.7	96.2	97.2	96.4	103.6
熊野川町	日帰り客	100.0	96.8	94.2	88.0	86.1	87.7	83.2
	宿泊客	100.0	128.6	114.3	100.0	142.9	171.4	128.6
	総数	100.0	97.5	94.6	88.3	87.3	89.6	94.0
本宮町 (現、田辺市)	日帰り客	100.0	102.5	129.7	131.6	133.2	142.7	244.6
	宿泊客	100.0	93.6	87.7	87.3	78.5	68.9	76.7
	総数	100.0	84.6	96.3	95.0	94.9	96.3	184.2

３．登録に関係する１市１０町の世界遺産登録前後の観光客数の比較

登録に関係する１市１０町の世界遺産登録前(平成１６年６月以前)と登録後(平成１６年７月以降)の観光客入り込み数を前年同期と比較して、世界遺産登録により当該地域への観光客入り込み数がどのように変化したのかを検証することとする。

１市１０町の合計でみると、世界遺産登録前では、世界遺産登録関係市町でも宿泊客は前年実績を下回っており２．１％の減少であるが、日帰り客については１１．２％の増加になっている。

登録後をみると、日帰り客は４０．１％と大幅に増加しており、宿泊客についても４．８％の増加となっている。

平成１６年夏期の天候不順にも関わらず、登録後は観光客が大幅に増加しており、観光客総数では、前年比２６．２％の増加となっている。

市町別に世界遺産登録前(平成１６年６月以前)と登録後(平成１６年７月以降)の観光客入り込み数を前年同期と比較してみる。

高野町

日帰り客は、登録前は１５．１％の増加であるが、登録後は４３．３％の増加である。宿泊客は、登録前は６．４％の減少であるが、登録後は２４．２％の増加である。

九度山町

日帰り客、宿泊客ともに絶対数が少なく、少数の人数の増減により、比率が大きく変動する町である。日帰り客は、登録前は１３３．３％の増加であるが、登録後は８３．０％の増加である。宿泊客は、登録前、登録後とも増減比率は０である。

かつらぎ町

日帰り客は、登録前は５４．３％の増加であるが、登録後は３０．６％の増加である。宿泊客は、登録前は１８．２％の減少であり、登録後も１６．７％の減少である。

白浜町

日帰り客は、登録前は2.5%の減少であるが、登録後は3.6%の増加である。宿泊客は、登録前は0.1%の減少であるが、登録後は増減比率は0である。世界遺産登録の恩恵をあまり受けていない町といえる。

中辺路町(現、田辺市)

日帰り客は、登録前は1.7%の増加であるが、登録後は173.7%の増加である。宿泊客は、登録前は増減率0であり、登録後は28.6%の増加である。熊野古道をウォークする観光客が増加したことが原因とみられる。

日置川町

日帰り客は、登録前は5.3%の増加であるが、登録後は39.0%の増加である。宿泊客は、登録前は14.3%の減少であり、登録後は6.3%の増加である。

すさみ町

日帰り客は、登録前は1.1%の減少であり、登録後も17.4%の減少である。宿泊客は、登録前は37.0%の減少であり、登録後も9.4%の減少である。すさみ町も白浜町同様世界遺産登録の恩恵をあまり受けていない町といえる。

那智勝浦町

日帰り客は、登録前は3.3%の減少であり、登録後は17.8%の増加である。宿泊客も、登録前は3.6%の減少であり、登録後は7.4%の増加である。

新宮市

日帰り客は、登録前は5.8%の増加であり、登録後は10.7%の増加である。宿泊客は、登録前は7.4%の減少であり、登録後は6.8%の増加である。

熊野川町

日帰り客は、登録前は増減率0であり、登録後は9.0%の減少である。宿泊客は、絶対数は少ないが、登録前は33.3%の増加であり、登録後は50.0%の減少である。

本宮町(現、田辺市)

日帰り客は、登録前は44.1%の増加であり、登録後は236.4%の増加である。宿泊客は、登録前は7.9%の増加であり、登録後は13.6%の増加である。中辺路町(現、田辺市)同様、熊野古道をウォークする観光客が増加したことが原因とみられる。

(表2-3) 登録に関する1市10町の登録前後の観光客数比較

(単位：千人)

		1月～6月 (世界遺産登録前)			7月～12月 (世界遺産登録後)		
1市10町		15年	16年	前年比(%)	15年	16年	前年比(%)
高野町	日帰り客	337	388	115.1	485	695	143.3
	宿泊客	125	117	93.6	207	257	124.2
	総数	462	505	109.3	692	952	137.6

九度山町	日帰り客	24	56	233.3	47	86	183.0
	宿泊客	1	1	—	6	6	—
	総数	25	57	228.0	53	92	173.6
かつらぎ町	日帰り客	184	284	154.3	291	380	130.6
	宿泊客	11	9	81.8	12	10	83.3
	総数	195	293	150.3	303	390	128.7
白浜町	日帰り客	637	621	97.5	668	692	103.6
	宿泊客	915	914	99.9	1,041	1,041	100.0
	総数	1,552	1,535	98.9	1,709	1,733	101.4
中辺路町 (現、田辺市)	日帰り客	174	177	101.7	186	509	273.7
	宿泊客	3	3	100.0	7	9	128.6
	総数	177	180	101.7	193	518	268.4
日置川町	日帰り客	38	40	105.3	59	82	139.0
	宿泊客	7	6	85.7	16	17	106.3
	総数	45	46	102.2	75	99	132.0
すさみ町	日帰り客	93	92	98.9	92	76	82.6
	宿泊客	27	17	63.0	32	29	90.6
	総数	120	109	90.8	124	105	84.7
那智勝浦町	日帰り客	395	382	96.7	415	489	117.8
	宿泊客	419	404	96.4	472	507	107.4
	総数	814	786	96.6	887	996	112.3
新宮市	日帰り客	463	490	105.8	439	486	110.7
	宿泊客	54	50	92.6	59	63	106.8
	総数	517	540	104.4	498	549	110.2
熊野川町	日帰り客	115	115	100.0	156	142	91.0
	宿泊客	3	4	133.3	10	5	50.0
	総数	118	119	100.8	166	147	88.6
本宮町 (現、田辺市)	日帰り客	279	402	144.1	173	582	336.4
	宿泊客	63	68	107.9	88	100	113.6
	総数	342	470	137.4	261	682	261.3
合 計	日帰り客	2,739	3,047	111.2	3,011	4,219	140.1
	宿泊客	1,628	1,593	97.9	1,950	2,044	104.8
	総数	4,367	4,640	106.3	4,961	6,263	126.2

第3章 世界遺産登録後のイベント

和歌山県では、平成16年7月7日のユネスコ世界遺産登録を契機として、観光資源のアピールと観光客の増加、観光関係者の「おもてなし」意識向上を目的として、「和歌山県大型観光キャンペーン」を実施した。また世界遺産登録に係る関連市町村にも記念イベント開催を呼びかけ、種々のイベントが実施された。

1. 和歌山県大型観光キャンペーン（和歌山デステイネーションキャンペーン）

(1) 実施主体

和歌山県大型観光キャンペーン推進協議会

参加団体・・・・・・・・・・178団体

内訳 県・市町村 50

県内観光協会 64

観光関係業者（団体・事業所） JR等64

事務局・・・・・・・・・・（社）和歌山県観光連盟

(2) 実施時期

平成16年10月1日～同12月31日

(3) 実施事業

① 主催イベント

和歌山市、高野町、熊野三山（新宮市、本宮町、那智勝浦町）、白浜町の6市町村において、世界遺産登録をアピールするイベントを実施。

和歌山エリア（場所：和歌山城）・高野エリア（場所：高野山）・熊野エリア（場所：熊野速玉大社、熊野本宮大社、熊野那智大社）・南紀エリア（場所：白良浜）

② 地域主催イベント

海草・那賀・伊都・有田・日高・西牟婁・東牟婁の7エリア13イベント

③ 宣伝・広告事業

- ・キャッチフレーズを公募し・・「わつ！が山ほど和歌山県」に決定する。
- ・宣伝物として「各種のポスター」を製作しJR西日本・東海の各駅、旅行会社、県内観光案内所、団体等に掲出するとともに「イベントガイドブック」65万部を製作し、JR主要駅、旅行会社、観光関連施設約1900箇所に配置する。

④ その他誘客促進対策として、「和歌山県街道マップ（8分冊）」「主要駅頭キャラバン」や受け入れ対策としての「歓迎グッズ（幟、ステッカー、ワッペン）」の製作、「観光客動向調査」等を実施した。

2. その他の平成16年度世界遺産登録関連の主な行事

世界遺産登録を広くアピールするとともに、和歌山県への観光客誘致を図るために、平成16年7月以降に県内において、県・市町村、観光協会等の主催によって各種のイベントが実施された。

その主要な行事は次のとおりである。

- (1) 紀伊半島3県知事会議（7／8：奈良県天川村）
- (2) 大辺路・世界遺産登録記念フォーラム（7／10：日置川町）
- (3) 黒潮交流事業・高野熊野写真展（7／14～19：千葉県庁・千葉そごう）
- (4) 熊野三山全国会議（7／15～16：那智勝浦町）
- (5) 山伏記念護摩焚き（7／18：本宮町大斎原）
- (6) 本宮熊野ハレヤ祭（7／18：新宮市・那智勝浦町・本宮町）
- (7) 世界遺産登録記念の点火（7／19：高野山）
- (8) 世界遺産国際シンポジウム（7／24：NHK大阪ホール）
- (9) 特別展「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝展」（8／10～9／20：大阪市立美術館）
- (10) 2004 かおり風景：全国フォーラム in 高野（9／11～12：高野山）
- (11) 曼陀羅ウォーク（9／25：九度山町～高野町）
- (12) 特別展「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝展」（10／1～11／3：名古屋市博物館）
- (13) 空海と高野山展（10／9～11／23：和歌山県立博物館）
- (14) 女人道巡りハイキング（10／24：高野町）
- (15) 和歌山県産品フェア（11／6～7：和歌山マリーナシティ）
- (16) 特別展「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝展」（11／20～1／23：世田谷美術館）

3. 世界遺産登録関係市町の観光振興対策

昨年7月7日に「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産リストに登録されてから1年経過したが、遺産登録関連地域としてどのような観光振興対策を実施したのか、また今後どのような振興策を計画しているのかについて遺産登録関連地域11市町にアンケート調査を実施した。

回答があった市町に結果をまとめたのが以下である。

(1) 世界遺産登録を契機に実施された観光振興対策

（観光入り込み客増加のための行政・民間団体等の諸事業）

年	月	日	イベント名	場 所	内 容	主催・共催者
16	6	16	第59回本因坊決定戦、第4局高野山決戦	金剛峰寺 総持院	以後最強タイトル戦の開催	実行委員会
16	7	4	伊勢大神楽	大斎原	伝統芸能の公演	熊野本宮大社
16	7	8	熊野流行歌謡今昔	熊野速玉大社	「ゆず」の北川悠人氏 コンサート 京都「今様舞楽会」	速玉大社・新宮 商工会議所・新 宮市観光協会・ 新宮市
16	7	18	てるて姫伝説～奥熊野聖地宵の集い	大斎原	芝居、太鼓、護摩たき	本宮町
16	7	19	世界遺産記念燈炬火リレー	かつらぎ町内	炬火リレー	町世界遺産記念 実行委員会
16	7	19	登録記念ビッグフ	和歌山市	音楽コンサート	実行委員会

			エスティバル		ジャズ、シャンソン他	
16	8	28	高野山祈りの響き	高野山会館	大阪フィルハーモニーと声明の会出演による音楽コンサート	関西電力 高野町
16	9	19	森羅万唱コンサート	大斉原	コンサート	実行委員会
16	10	10	高野山音曼荼羅	高野山内各所	大型観光キャンペーン・音楽イベント	和歌山県観光連盟
16	10	23	デューク更家講演会	新宮市民会館	ウオーキングドクター「デューク更家」氏の講演会	和歌山県観光連盟
16	10	31	熊野古道大辺路ウォーク	日置川町 仏坂	大辺路(富田坂、仏坂、長井坂)ウォーク	日置川町、白浜町、すさみ町
16	11	6	熊野音絵巻	熊野速玉大社	津軽三味線演奏・「木下伸一」氏コンサート(太鼓・笛・琴とのコラボレーション)	新宮商工会議所等
16	11	14	長井坂ウォーク	長井坂	ウォークイベント	大辺路協議会
16	11	13	熊野音絵巻	大斉原	和太鼓コンサート	県観光連盟
16	11	13	つば湯感謝祭	湯の峰温泉	1800 人目の入浴	熊野本宮観光協会 四村川財産区
16	11	28	世界遺産登録記念イベント	伊都郡かつらぎ町天野	町石道ウォーキング、ヘリコプター遊覧飛行、物産販売、丹生都比売神社宝物伝の開放及び写真展	町世界遺産記念 実行委員会
17	3	12	高野・広域エリア観光キャンペーン	東京八重洲	パネル展示 パンフレット配布他	橋本・伊都広域 観光連盟 県観光連盟他
17	3	26	関空開港 10 周年記念	関空イベント 広場	パネル展示 パンフレット配布他	南海電鉄 高野町
17	5	19	ほんまもん体験	日置川町	修学旅行	大好き日置川の会
17	6	1	ほんまもん体験	日置川町	修学旅行	大好き日置川の会
17	7	3	熊野山系道遊歩と渡し	三重県鶴殿村 ～新宮市	新宮市と鶴殿村の歴史遺産を巡る	新宮商工会議所等
17	7	3	世界遺産登録一周年記念記念イベント	かつらぎ町天野	フォーラム 神前神楽・舞楽演奏会	和歌山県、世界遺産高野地域協議会、かつらぎ町、丹生都比売神社
17	7	9	熊野古道大雲取越ウォーク	那智勝浦町 ～熊野川町	熊野古道大雲取越ウォーク	熊野川町

(2)上記イベント等で、特に効果があったと思われるものは何でしたか。

(入り込み客が多かった、地域のPRができた、住民の観光についての意識向上等)

事業名 効 果	熊野古道大辺路ウォーク、ほんまもん体験 地域のPRができた。
事業名 効 果	熊野山系道遊歩と渡し 入り込み客が多かった。地元の観光ガイドの案内でより地域のPRができ、参加者の反応も良かった。
事業名 効 果	長井坂ウォークイベント 長井坂のPRができた。
事業名 効 果	世界遺産登録記念イベント かつらぎ町が平成17年7月7日「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されたことを町内外にさらに周知できた。
事業名 効 果	森羅万唱コンサート 入り込み客が多かった。
事業名 効 果	高野山祈りの響き 全国から葉書による申し込みで、900名収容の会場が満席になった。

(3)今後計画されている事業がありましたらお聞かせ下さい

年	月	日	イベント名	場所	内容	主なターゲット	主催・共催者
17	8	20 21 22	世界遺産登録一周年記念国際熊野学会	田辺市本宮開発センター	公開講演会、研究発表	会員・市民	国際熊野学会
17	8	27	世界遺産登録一周年記念八咫の火まつり	熊野本宮大社旧社地(大斉原)	時代行列 おどり 花火	観光客 市民	実行委員会
17	9	24	高野山親善ゲートボール大会	高野山森林スポーツ広場	ゲートボール大会	近畿圏内ゲートボール愛好家	実行委員会
17	10	15	高野山俳句ウォーク公開句会	高野山大師協会	高野山を散策しながら句作	全国から一般愛好家	金剛峰寺 高野町
17	10	23	女人道巡りハイキング	高野山女人道		近畿圏内ハイキング愛好者	高野町商工会青年部
17	10	30	熊野古道大辺路ウォーク	日置川町	ウォーク体験		大辺路地域協議会
17	10	14	ほんまもん体験	日置川町	修学旅行		大好き日置川の会
17	秋頃		熊野川、川船下り(季節限定で事業化予定)	熊野川町～新宮市	川の熊野古道熊野川を語り部の川船で下る		未定

17	11	3	かつらぎ町、花園村合併記念、特産品フェア	かつらぎ町妙寺地区	両町村 PR	近隣住民	かつらぎ町、商工会
17	11	12	ベトロモンターニャ 2005	高野山	クラシックカー乃展示及び走行会		実行委員会
17	11	20	読売ヘルシーハイク	高野山町石道	世界遺産の町医師道を高野山から下るコース	一般	南海電鉄読売新聞社
17	12	18	関空・高野山西日本大学駅伝競走	関空～高野山	西日本大学の駅伝		関西学生陸連・実行委員会

- (4)世界遺産登録関連地域としてイベントを実施し、具体的にどんなメリットがあったと感じていますか。

全国的に当地域の名が知られるようになった。 地元住民の地域の歴史・文化についての意識の向上につながった。
すさみ町が PR できた。
悠久の歴史に感謝し、世界共通の遺産として次世代に引き継ぐことの大切さを広く町民に PR するとともに、郷土のすばらしさを再発見できた。
観光客が増加した。
参拝者、観光客の増加、地区に海外からの観光客が増加した。 各マスコミの取材が増えて、PR ができた。

- (5)貴地域が今後力を入れたいと考えている観光振興のための施策・事業・文化遺産保存対策等がありますか。

自然・農業・漁業・大辺路(熊野古道)等、体験型観光振興
・何か新しい事業を考えたり、お金をかけた単発的なイベントを行うのではなく、今あるすばらしい文化遺産にまずは地元住民が改めて目を向け、それらを崇め敬うことにより、輝かせる方向づけでいきたい。
・観光ガイドのスキルアップを行う。現在活動している観光ガイドの人たちをスキルアップするため、勉強会・現地講習会等をきめ細かく実施する。
大辺路街道長井坂の維持整備。
世界遺産登録を契機に都市、町の自然・歴史・文化及び体験観光等の豊かな観光資源を県内外に広く紹介する。また、地元住民による世界遺産「町石道」の保存活動を推進する。
地域住民とともに現状（文化遺産）を守っていく。
高野町ならびに総本山金剛峰寺を中心に発展を考えたい。

- (6)貴地域の観光振興を図る上においての課題・問題点は何だとお考えでしょうか。

地域内を移動する JR 列車・バス等の本数が少なく、またそれらが相互に接続していないため、観光客にとっては不便を強いられることになっている。
交通の便の整備、ネットワーク化。
農山村地域のかつらぎ町では、高齢化がすすむ中、「豊かなまちづくり」を進めようと地域住民が中心となり、産業活性化に取り組んでいるが、さらに情報発信し、多様化した人々のニ

ズに対応した観光地づくりに取組み、知名度アップに努め、誘客を図ることが必要である。
1泊ではなく滞在型のシステムづくり。
渋滞や駐車場等の交通問題 排気ガス等による環境問題。

(7)観光振興について要請したい国・県への施策要望は何でしょうか。

高速道路の延伸（南部～白浜間）と4車線化（海南～吉備間）の促進。
民間のノウハウを最大限に生かして地域の実情にあった観光振興支援づくり。
特色ある地域づくりと特色ある誘客対策。
国道・県道・都市計画道路の整備・完成。 公共交通機関の充実。
行政の観光振興についての支援強化。 地域のイベント支援。 効果的な和歌山県の観光宣伝。

観光協会代表者 各位

世界遺産登録関係市町の観光振興対策実態調査へのご協力お願い

拝啓 時下ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成16年7月7日「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産リストに登録されました。

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、三重、奈良、和歌山の三県にまたがる「紀伊山地の自然」がなければ成立しなかった「山岳霊場」と「参詣道」、及び周囲を取り巻く「文化的景観」が主役であり、日本で唯一、世界でも類を見ない資産として価値の高いものであります。

登録を機会に和歌山県の各地で様々なイベントやキャンペーン実施されているが、特に、平成16年10月から12月にかけて、和歌山県とJR各社等のタイアップによるキャンペーンは、県内各地域のキャンペーンと相まって観光客の誘致を促しているところであります。

和歌山県は観光産業による地域活性化を図ってきましたが、過去の入り込み客は横ばいか、やや減少傾向にあります。

そこで今回、社団法人中小企業診断協会和歌山県支部和歌山県支部では、自主研究として「紀伊山地の霊場とその参詣路」が世界遺産に登録された結果、どのように変化し、今後どのように変わっていくかを調査・研究することにしました。

調査・研究の目的は、県下の観光客の入り込み状況の推移と世界遺産登録後の変化、同時に、世界遺産登録関係市町の観光に対する取り組みを調査し、課題を抽出し、今後の観光立県としてのあるべき方向性を見出していくことであります。

観光協会の代表者の方々には、大変お忙しい中、大変なお手数をおかけいたしますが、観光産業の一層の促進に向けた資料づくりという趣旨をご理解いただき、是非調査にご協力賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成17年8月8日

〒640-8150

和歌山市十三番丁52番地

社団法人 中小企業診断協会

和歌山県支部

支部長 奥村博志

TEL 073-428-7370

FAX 073-423-7737

貴地域の観光振興対策について

昨年7月7日に「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産リストに登録されてから1年が経ちました。遺産登録関連地域としてどのような観光振興対策をされたのか、また今後どのような振興策を計画されているのかについてご記入頂けますようお願い申し上げます。

1. 世界遺産登録を契機に実施された観光振興対策

(観光入り込み客増加のための行政・民間団体等の諸事業)

年	月	日	イベント名	場 所	内 容	主催・共催者

※上記欄に記入できない場合は既製のチラシ等の添付で結構です。

2. 上記イベント等で、特に効果があったと思われるものは何でしたか。

(入り込み客が多かった、地域のPRができた、住民の観光についての意識向上等)

事業名	
効 果	

3. 今後計画されている事業がありましたらお聞かせ下さい

年	月	日	イベント名	場 所	内 容	主なターゲット	主催・共催者

4. 世界遺産登録関連地域としてメリットはありましたか。

あった。 特になかった。 分からない。

5. 「メリットがあった」とお答え頂いたことについてお聞きします。

具体的にどんなメリットがあったと感じていますか。

6. 「メリットがなかった」とお答え頂いたことについてお聞きします。

その理由は何だとお考えですか（アクセスの問題、誇れる遺産不足等）

--

7. 貴地域が今後力を入れたいと考えている観光振興のための施策・事業・文化遺産保存対策等がありますか。

--

8. 貴地域の観光振興を図る上においての課題・問題点は何だとお考えでしょうか。

--

9. 観光振興について要請したい国・県への施策要望は何でしょうか。

--

回答者 役職 _____

氏名 _____

ご協力ありがとうございました。

第4章 観光実態調査結果

和歌山県は世界遺産登録を控えて、本県の観光施策の構築と、観光事業の展開に必要な基礎資料とすべく、観光実態調査を実施した。

調査の視点

- ・ 県内観光地来訪者の実態調査
- ・ 県内観光地の理解度、感想の把握
- ・ 有効な集客の媒体、アプローチする場所の把握

調査期間

- ・ 夏調査 平成14年8月～9月
- ・ 秋調査 平成14年10月～11月
- ・ 春調査 平成15年1月～2月

調査結果の概要は次のとおりである。

1. 旅行の形態

(1) 来訪人数

項目	構成比(%)
本人のみ	6.3
2人	40.8
3人	14.5
4人	14.8
5人	6.7
6人以上	12.4
不明	4.5
平均	4.54

(2) 来訪の単位

項目	構成比(%)
1人	6.1
カップル	8.0
夫婦	26.2
家族	34.8
修学旅行・職場旅行	1.0
学生時代の友人	4.8
職場仲間	5.1
近所の知り合い	3.5
趣味・サークル	4.0
その他	5.1
不明	1.6

(3) 旅行代理店の利用

項目	構成比(%)
旅行代理店などが企画	3.5
旅行代理店のバック商品等に申し込み	5.7
宿泊先のみ旅行会社商品を申し込み	4.5
自分達が独自に計画	80.3
不明	6.0

(4)旅行日程

項 目	構成比(%)
宿泊	72.0
日帰り	25.3
不明	2.7

(5)和歌山県内の宿泊数

項 目	構成比(%)
和歌山県内に1泊	67.2
和歌山県内に2泊	22.1
和歌山県内に3泊以上	6.2
不明	4.5
平均(泊)	1.42

(6) 和歌山県外の宿泊数

項 目	構成比(%)
和歌山県外に1泊	5.2
和歌山県外に2泊	1.3
和歌山県外に3泊以上	1.1
不明	92.4
平均(泊)	1.95

(7)利用した宿泊施設のタイプ

項 目	構成比(%)
ホテル	48.5
旅館	19.5
民宿・ペンション	5.9
その他	22.9
不明	3.8

2. 来訪回数

(1)この2年間で和歌山県内を旅行した回数

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
1回	23.0	10回	9.9
2回	15.7	11回以上	10.4
3回	11.6	不明	11.5
4～5回	13.5	平均(回)	6.96
6～9回	4.3		

3. 交通手段

(1)主な交通手段

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
自家用車	71.1	飛行機	5.3
レンタカー	3.3	バイク	2.6
電車	14.1	タクシー・ハイヤー	1.2
貸し切りバス	5.7	その他	0.8
路線バス・高速バス	3.6	不明	1.2
フェリー・船	0.8		

4. 来訪目的

(1) 来訪目的

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
観光・レジャー	67.7	業務・研修を兼ねた旅行	1.5
ドライブ	8.6	修学旅行・見学旅行	0.2
所要・帰省を兼ねた観光	4.4	合宿	0.1
慰安旅行	4.0	その他	9.6
ビジネス	1.8	不明	2.1

5.和歌山選択理由

(1)和歌山を選んだ理由

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
安い	14.3	旅行会社に勧められた	1.8
近い	25.1	周遊観光の途中だから	5.1
以前来てよかった	21.9	のんびりできる	22.2
交通の便がよい	8.0	ここにしかない魅力がある	15.2
景色がきれい	27.7	その他	17.8
話題になっている	3.6	不明	22.2
この地が好きだから	9.1		

6.今回の旅行の情報源

(1) 今回の観光・旅行の情報源

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
以前から知っていた	58.1	その他のホームページ	6.6
旅行ガイドブック	15.6	携帯電話のIモード等	0.2
旅行情報専門誌	3.7	口コミ・知人紹介	9.0
レジャー等情報誌	1.9	観光案内所	1.2
観光パンフレット・チラシ	11.2	駅や電車広告などのポスター・広告	0.5
新聞記事・広告	2.8	得にない	2.6
テレビ	2.5	その他	6.0
旅行会社の紹介	3.8	不明	6.9
自治体のホームページ	3.1		

7.和歌山県内での消費額

(1) 県内での交通費(一人当たり)

項 目	構成比(%)
2千円未満	31.7
2～5千円未満	32.9
5～1万円未満	19.5
1～2万円未満	10.5
2～3万円未満	2.5
3万円以上	2.4
平均(円)	5,112

(2) 県内での宿泊費(一人当たり)

項 目	構成比(%)
1万円未満	15.2
1～2万円未満	44.5
2～3万円未満	17.7
3～5万円未満	13.1
5～10万円未満	7.2
10万円以上	2.3
平均(円)	22,675

(3) 県内での飲食費(一人当たり)

項 目	構成比(%)
2千円未満	22.7
2～5千円未満	37.4
5千～1万円未満	20.6
1～2万円未満	13.4
2万円以上	5.8
平均(円)	5,358

(4) 県内での入場観覧費(一人当たり)

項 目	構成比(%)
2千円未満	46.1
2～5千円未満	26.1
5千～1万円未満	16.0
1～2万円未満	8.3
2万円以上	3.5
平均(円)	3,782

(5) 県内での土産物費(一人当たり)

項 目	構成比(%)
2千円未満	18.8
2～5千円未満	37.3
5千～1万円未満	24.7
1～2万円未満	14.4
2万円以上	4.8
平均(円)	5,190

8. 観光ルート

(1) 立ち寄り地域数

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
1地域	34.8	5地域以上	5.8
2地域	23.8	不明	18.5
3地域	12.2	平均(地域数)	2.09
4地域	5.6		

(2) 立ち寄り地域

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
加太・友ヶ島	4.8	那智・勝浦・太地	18.8
和歌山市中心部	8.2	串本・潮の岬	12.0
和歌山マリーナシティ	7.1	熊野・新宮・瀬峡	8.3
高野山	11.8	三重・伊勢・志摩	2.3
龍神村	9.3	奈良・十津川	2.9
海南・有田・湯浅	5.0	その他の府県	6.4
田辺・御坊	15.5	その他の県内	14.7
白浜	30.9	不明	18.7
熊野古道・本宮	12.2		

(3) 宿泊地域

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
加太・友ヶ島	1.1	那智・勝浦・太地	9.6
和歌山市中心部	1.2	串本・潮の岬	4.3
和歌山マリーナシティ	0.9	熊野・新宮・瀬峡	1.2
高野山	0.4	三重・伊勢・志摩	0.8
龍神村	2.7	奈良・十津川	0.7
海南・有田・湯浅	0.4	その他の府県	1.0
田辺・御坊	5.1	その他の県内	1.5
白浜	15.7	不明	58.7
熊野古道・本宮	3.5		

9. 今後してみたい観光・レジャー

(1) 和歌山県内で今後してみたい観光・レジャー

項 目	構成比(%)	項 目	構成比(%)
名所・旧跡巡り・古道ウォーク	31.1	キャンプ	19.3
神社・仏閣詣で	11.8	釣り	15.9
海水浴	22.8	山登り・トレッキング	9.4
温泉	63.4	自然観察	21.3
グルメ・食べ歩き	22.6	スキューバーダイビング	9.2
買い物	5.6	陶芸・木工・工芸品づくり	14.4
潮干狩り	7.1	押し花・草木染めなど手芸	5.8
動・植物園などの見学	5.7	郷土料理づくり	7.3
遊園地で遊ぶ	5.1	農業・林業・漁業収穫体験	12.5
美術館・博物館	3.7	農村・漁村生活体験	4.8
森林浴	10.9	その他	2.7
イベント・祭り	6.4	不明	11.6

10. 宿泊先の予約

(1) 今回の宿泊先の予約方法

項 目	構成比(%)
申し込んだ企画のパックになっていた	6.5
自分で旅行代理店等に申し込んだ	15.6
携帯ネット、インターネットで宿泊先に直接申し込んだ	10.1
旅行情報誌で見て直接申し込んだ	8.0
ガイドブックを見て直接申し込んだ	11.4
宿泊地エリアの観光協会ですべて探してもらった	0.9
現地にきて看板等を見て宿泊先を直接訪れた	2.9
その他	18.6
不明	26.0

11. 宿泊先決定時の重視点

(1) 宿泊先決定時に重視した点

項 目	構成比(%)
料金にお得感がある	33.0
宿泊施設までのアクセスが良い。立地条件が良い	19.1
宿泊施設全体の雰囲気が良い	16.4
サービス内容に魅力がある	3.9
フロントや係の対応が良い、おもてなしが良い	3.0
温泉が楽しめる	38.3
食事がおいしい	15.5
食事の内容が特徴的	5.0
部屋がきれい	6.4
部屋の設備が整っている	3.5
知名度が高い、評判が良い	6.5
施設内のバリアフリーが配慮されている	0.4
総合的且つ料金見合いなどを見た時の満足度	9.8
不明	38.6

12. 調査結果のまとめ

各質問項目の1位及び2位(不明、その他を除く)をまとめると次のようになる。

項 目	1 位	2 位
旅行の形態		
来訪人数	2人	4人
来訪の単位	家族	夫婦
旅行代理店の利用	自分達が独自に計画	旅行代理店のパック商品等に申し込み
旅行日程	宿泊	日帰り
和歌山県内の宿泊数	和歌山県内に1泊	和歌山県内に2泊
和歌山県外の宿泊数	和歌山県外に1泊	和歌山県外に2泊
利用した宿泊施設のタイプ	ホテル	旅館
来訪回数		
この2年間で和歌山県内を旅行した回数	1回	2回
交通手段		
主な交通手段	自家用車	電車
来訪目的		
来訪目的	観光・レジャー	ドライブ
和歌山選択理由		
和歌山を選んだ理由	景色がきれい	近い
今回の旅行の情報源		
今回の観光・旅行の情報源	以前から知っていた	旅行ガイドブック
和歌山県内での消費額		
県内での交通費/一人	2～5千円未満	2千円未満
県内での宿泊費/一人	1～2万円未満	2～3万円未満
県内での飲食費/一人	2～5千円未満	2千円未満
県内での入場観覧費/一人	2千円未満	2～5千円未満
県内での土産物費/一人	2～5千円未満	5千～1万円未満
観光ルート		
立ち寄り地域数	1地域	2地域
立ち寄り地域	白浜	那智・勝浦・太地
宿泊地域	白浜	那智・勝浦・太地
今後してみたい観光・レジャー		
和歌山県内で今後してみたい観光・レジャー	温泉	名所・旧跡巡り・古道ウォーク
宿泊先の予約		
今回の宿泊先の予約方法	自分で旅行代理店等に申し込んだ	ガイドブックを見て直接申し込んだ
宿泊先決定時の重視点		
宿泊先決定時に重視した点	温泉が楽しめる	料金にお得感がある

第5章 観光客動向調査

和歌山県観光連盟ではデステイネーションキャンペーン期間中に2回のアンケート調査を行っている。2回については同じ質問も多いので下記の通り比較した。

アンケート 方法 質問項目	観光PRホームページにおいて、アンケートに記入して応募すれば和歌山県の特産品が当たる	東京～博多間の主要駅15においての駅頭キャンペーンで、アンケート記入者に和歌山の特産品が当たる
応募総数 無作為抽出	7, 516通のうち無作為で 500通の集計	5, 606通のうち無作為で 500通の集計
Q1. 旅行で和歌山県を訪れたことはあるか	ある79% ない21%	ある78% ない22%
Q2. それは何処ですか	白浜27%、勝浦22% 高野山14%、本宮12% 新宮9%、和歌山市9% 串本4%、龍神3%	白浜29%、勝浦23% 高野山16%、本宮9% 新宮9%、和歌山市9% 串本4%、南部1%
Q3. 近々和歌山県に旅行したいと「考えている」か	考えている 89% いない 11%	質問なし
Q4. 考えている方は何処に行きたいのか	勝浦28%、本宮21% 新宮19%、高野山12% 白浜11%、和歌山市3%	質問なし
Q5. 高野山・熊野三山が世界遺産に登録されたことを知っているか	知っている91% 知らない 9%	質問なし
Q6. 世界遺産に登録された熊野三山等を訪れたいか	思う 99% 思わない1%	質問なし
Q7. 和歌山県迄の旅行手配は何処で	自分で手配 59% 旅行代理店で手配 22% 旅行会社のツアー参加18%	自分で手配 45% 旅行代理店で手配 27% 旅行会社のツアー参加 27%

Q 8. 国内旅行をするときの目的とするのは何か	自然景観 4 6 % 温泉 3 3 % 郷土料理 1 1 % その他 6 %	自然景観 5 8 % 温泉 2 9 % 郷土料理 6 % イベント 2 % その他 5 %
Q 9. 宿泊を伴う旅行の一回当たりの費用は	5 6, 0 0 0 円	5 5, 9 4 0 円
回答者性別	男性 4 5 %、 女性 5 5 %	男性 4 7 %、 女性 5 6 %
回答者住所地	県内 8 %、 県外 9 2 %	質問なし

第6章 第三者機関調査による「和歌山・世界遺産の位置づけ」

各種調査専門機関の「株式会社流通情報センター」（本社東京）が平成16年11月に「各種調査専門全国有名観光地魅力度調査」を実施した。これは、日本の108箇所の観光地を厳選し、各観光地の持つ魅力度やイメージを様々な角度から分析したものである。

【観光地魅力度調査】

1. 実施機関・・・株式会社 流通情報センター
2. 調査日・・・平成16年11月4日～11月30日
3. 調査対象者・・・15～69歳の男女個人
4. 対象者の抽出方法・・・RJCモニターパネルより層化無作為抽出
5. 回答者・・・首都圏40kmの居住者
6. 調査方法・・・郵送法、1000サンプル、有効回収率71.2%
7. 回答者出身地：東京40%、神奈川県16%、埼玉県11%、千葉県7%、東北4%、近畿4%、九州4%、甲信越3%、東海3%、その他
8. 調査対象観光地・・・108地区

選定基準・・・JR周遊コースの好評地。旅行会社推薦、マスコミ等の評価・話題性

〔近畿地域〕・・・13地域

紀伊山地の霊場と参詣道、南紀白浜、那智・勝浦、琵琶湖、天橋立、京都、USJ、大阪、城崎、神戸、有馬、姫路、奈良。

〔北海道地域〕・・・9地域

アルファリゾートマム、阿寒湖・摩周湖・屈斜路湖、札幌、小樽、知床、登別、層雲峡・大雪山国立公園、洞爺湖・昭和新山、函館。

〔東北地域〕・・・11地域

十和田湖・奥入瀬溪流、白神産地・鱒ヶ沢、深浦・十ち二湖、安比高原、三陸海岸、平泉（中尊寺・毛越寺）・厳美溪、松島、男鹿半島、田沢湖、蔵王、猪苗代湖・磐梯高原、五色沼、スバリゾートハワイアンズ。

〔関東地域〕・・・19地域

水戸、那須・塩原、日光、鬼怒川、水上、草津、万座、尾瀬、秩父・長瀨、東京ディズニーリゾート、内房、外房、お台場、サンリオピューロランド、東京（お台場地区を除く観光地）、横浜、鎌倉、三浦半島・湘南、箱根。

〔甲信越地域〕・・・12地域

越後湯沢、佐渡、苗場、清里・野辺山・八ヶ岳山麓、富士五湖、軽井沢、志賀高原、上高地、白骨、白馬、白樺湖・蓼科、妻籠・馬籠。

〔北陸地域〕・・・4地域

立山・黒部・宇奈月、金沢、能登半島、敦賀・若狭・東尋坊・越前海岸。

〔東海・中部地域〕・・・12地域

下呂、飛騨高山、白川郷、中伊豆（修善寺・伊豆長岡）、西伊豆（堂ヶ島・土肥）、東伊豆（伊豆高原・熱川）、南伊豆（下田・白浜・石廊崎）、熱海、富士山、明治村、志摩スペイン村（パルケエスパニーヤ）、伊勢・志摩・鳥羽。

〔中国地域〕・・・・・・13地域

大山、鳥取砂丘、出雲、岡山（後樂園）、倉敷、広島、宮島、萩・津和野・秋吉台、鳴門、琴平、道後、高知、四万十川。

〔九州地域〕・・・・・・12地域

スペースワールド、博多、吉野ヶ里遺跡、ハウステンボス、長崎、阿蘇、別府、湯布院、シーガイア、青島・日南海岸、屋久島、桜島。

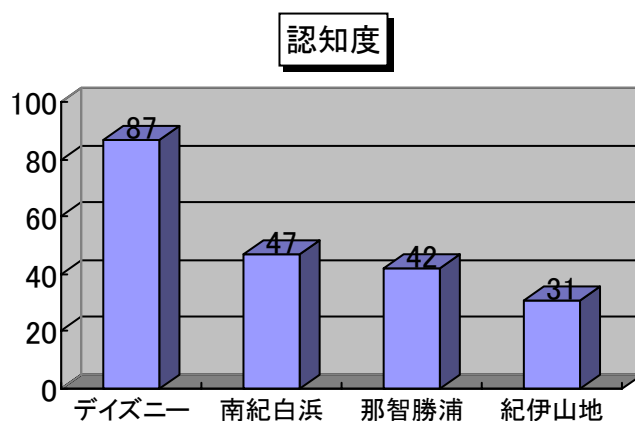
〔沖縄地域〕・・・・・・3地域

沖縄本島リゾート・景勝地、沖縄離島部（石垣島・宮古島）、那覇・首里。

9. 観光地総合力・・・・観光地の認知度、魅力度、来訪経験、来訪意向

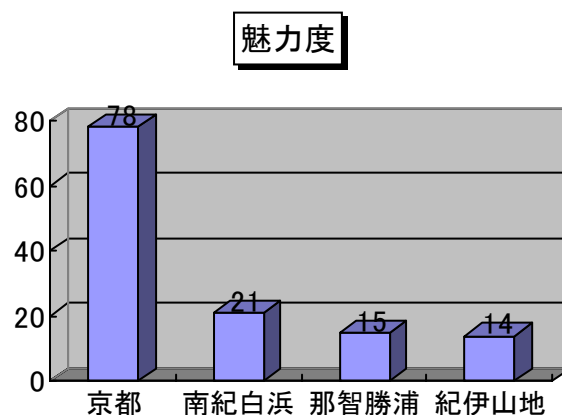
1) 認知度順位・・・・前掲108地域のうち

- 1位 東京ディズニーリゾート
- 2位 横浜
- 3位 東京（お台場地区を除く観光地）
- ・
- ・
- 80位 南紀白浜
- 90位 那智・勝浦
- 103位 紀伊山地の霊場と参詣道



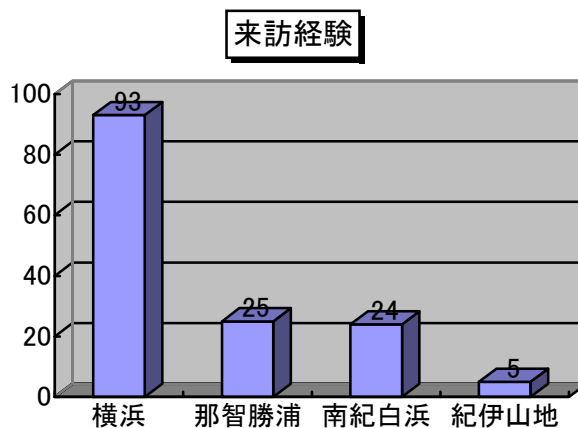
2) 魅力度順位

- 1位 京都
- 2位 沖縄離島部（石垣島、宮古島等）
- 3位 横浜
- 61位 南紀白浜
- 75位 那智・勝浦
- 80位 紀伊山地の霊場と参詣道



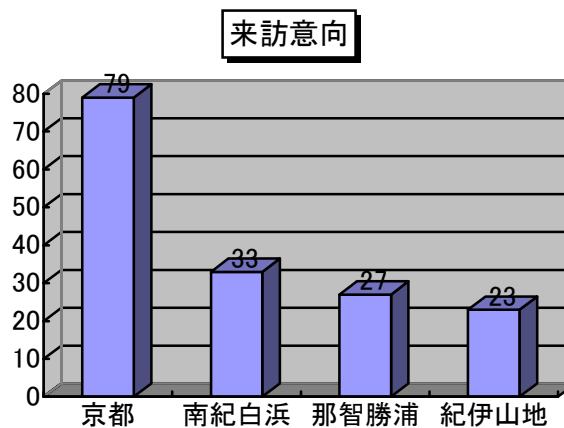
3) 観光地の来訪経験

- 1位 横浜
- 2位 東京ディズニーリゾート
- 3位 箱根
- ・
- ・
- 75位 那智・勝浦
- 77位 南紀白浜
- 106位 紀伊山地の霊場と参詣道



4) 観光地の来訪意向

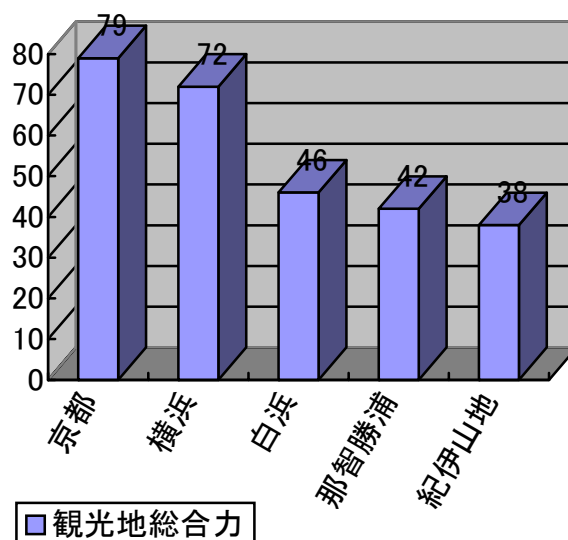
- 1位 京都
- 2位 沖縄本島リゾート・景勝地
- 3位 沖縄本島離島部（石垣島・宮古島等）
- ・
- ・
- 64位 南紀白浜
- 79位 那智勝浦
- 89位 紀伊山地の霊場と参詣道



10. 観光地総合力ランキング・・・N=108観光地

観光地の認知度、魅力度、来訪経験、来訪意向の得点を総合すると、以下のようになる。

- 1位 京都
- 2位 横浜
- 3位 箱根
- 4位 鎌倉
- 5位 ディズニー
- ・
- ・
- 72位 南紀白浜
- 85位 那智・勝浦
- 95位 紀伊山地の霊場



第7章 各種調査からみた問題点

1 観光実態調査および観光客動向調査からみた問題点

第4章「観光実態調査」および第5章「観光客動向調査」からの疑義を提示したい。各種アンケート調査は多額の費用と労力をかけて行われる。しかし、その調査方法によっては、自己満足を得るための調査になることもある。つまり、調査は「何を目的」として行うのか？、そのためには「どんな設問」が適切なのか、「何処で、だれを対象に行うのか」等の十分な検討が必要である。

まず「観光実態調査」は和歌山県の観光地に“観光に来ている観光客”へのアンケートである。ということは、多少なりとも和歌山に関心、好意を持っている人たちを対象にしているということである。

そのために、最近2年間での和歌山県内への来訪回数は平均約7回とすこぶる多い。次に観光地に和歌山を選んだ理由は「景色がきれい」「近い」「以前来てよかった」「のんびりできる」「魅力がある」「安い」など多分に好意的である。

次に世界遺産登録後に行われた大型観光キャンペーン（デステイネーションキャンペーン）での東京から京都～博多間での駅頭アンケートや県観光連盟の特産品が当たるアンケート「観光客動向調査」での疑義である。

2つのアンケートでは、県外者の回答者が殆どであるにも係わらず、旅行で和歌山県を訪れたことがあるという人は78%以上もあるということ。次にHP上での回答には、近々和歌山県に旅行したいと考えている人が89%もある。世界遺産の登録はマスメディアによつての周知はあるとして、県外の人で熊野三山・高野山へ99%もの人が訪れたいという驚異的な世界遺産効果である。

善意的に2つのアンケートを見れば、「和歌山県」は東京～名古屋～京都～大阪～博多間では大変著名で、是非観光してみたい、行ってみたい、何度でも行ってみたいと思われる素晴らしい県であると解釈できる。果たしてそうであろうか？。

穿った見方をすれば、HPでのアンケートに答えれば「和歌山県の特産品がもらえる」という事で、回答者には心理的な好意感がはたらかなかつたか。又駅頭での観光キャラバンの近くに寄って行く人は、幟、ポスター等を見て、「その観光地」に興味を持っている、又は「一度行ってみたい」と思っている人が多く集まるものだ。となると全くの無作為のアンケートより、データは当事者の意向に則したものとなり得る。

和歌山県は「観光立県」を標榜し、観光客誘致に努めてきたが、近年はじり貧状態であり、観光地として賑わった白浜、勝浦、和歌浦等の凋落は目を覆うばかりである。又、近年、観光客に注目されるような施設建設やアピール施策は眼にしない。

しかし、これらのアンケート結果では、世界遺産登録を契機に和歌山への入り込み客増加は間違いないさそうである。

つまり、観光振興施策を講じるための資料とする「観光実態調査」「観光客動向調査」であるが、その目的とする観光客増加施策にはあまり心配しなくとも良さそうということになるだろうか。

２．「観光地魅力度調査」からみた問題点

和歌山県観光連盟等が行った「観光実態調査」「観光客動向調査」での「和歌山県」及び世界遺産登録の「紀伊山地の霊場と参詣道」は大変評価がよい。しかし、「和歌山県」を意識しない、一般的な第三者調査機関の調査では、全国の観光地野中ではそれほど点数が高いとは言えない。「紀伊山地の霊場と参詣道」の認知度は１０３位、魅力度は８０位、来訪経験は１０６位、来訪意向は８９位であり、それらの総合点数は９５位となる。

これを低いとみるか、妥当と見るか……。県等のアンケート結果からも得るものはあるが、流通情報センターの調査からも参考にすべきことは多い。かえってこの結果からの方が、和歌山県及び観光関係者が観光振興のために取り組むべき課題を見つけ出さなければいけないのではないのか。

この調査の対象となった１０８の地域は、それぞれの都道府県が観光客導入ポイントとして、力を入れている名所・旧跡等である。その中にあって、認知度順位は「８０位」である「白浜町」は魅力度については「６１位」に、又「那智・勝浦」、「紀伊山地の霊場と参詣道」も２０位ほど点数アップしている。と言うことは、余り認知や訪れたことはないが、全国観光地の中にあつても少しは「魅力」を感じていると受け取れる。これは、「来訪意向」においても白浜と紀伊山地の霊場と参詣道はランクアップしている。

観光旅行への志向は年齢、性別によっても、又、旅行回数によつても異なる。自然・景観志向、温泉志向、郷土料理志向、イベント志向、歴史・伝統志向、スポーツ志向、リゾート志向、保養・癒し志向等……。多様である。となると、和歌山県の観光地は観光客の「どの志向にマッチしている」のか、「何をセールスポイントにしている」のかの吟味が必要であろう。それがないようであれば、何らかのセールスポイントを創らなければいけない。

第8章 観光産業の経済的影響・効果

観光客の増加は地域経済に多様な経済的影響を及ぼす。それは観光客の観光地への支出によって発生する。所得創出効果、雇用創出効果、個人消費の増大効果、投資誘発効果、国・地方税の税収増加効果等である。しかし、観光客支出の正確な数字把握は不可能に近い。支出金の流れ及び波及効果は多分に視覚的（推測的）な捉え方となる。つまり、経済的波及効果を計算するためには一定の条件設定（観光乗数モデル）によるものとせざるを得ない。

目的地までどんな交通手段を利用するのか、目的地ではどんな宿泊施設を利用するのか、途中の食事はどうするのか、観光施設への入場は何処と何処にするのか、観光施設をいくつ回るのか、移動にはどんな交通手段を使うのか、おみやげはどのくらい購入するのか・・・数字を掴むことはなかなか大変である。

観光客の支出は観光関連業者の売り上げ（所得）となる（所得創出効果）。売り上げが増えれば企業の拡大、宿泊施設の増大となり新規雇用の拡大となる（雇用創出効果）。すると施設と取引関係のある他の企業の規模拡大、雇用の増加となろう。就労機会が増えれば可処分所得も増えて個人消費の増大（個人消費の増大効果）また、観光産業の発展が期待されれば観光地の開発という意味で新規投資を誘発する可能性（投資誘発効果）もでてくる。

さらに、当該産業の租税納付額の増大、従業員の所得税納入増大となる（租税効果）。観光支出の経済波及効果を推計・計測する場合の概念に観光乗数（tourism multiplier）がしばしば用いられる。（観光乗数とは、観光客支出の1単位の増加によってある経済に生ずる経済活動の増大を測定する計算法）

そして、観光乗数は観光客の支出と企業の売り上げを関連づける取引乗数、地域経済活性化計算の産出乗数、地域経済内の所得変化のための所得乗数、直接間接雇用効果計算の雇用乗数に分類され、それぞれに欧米の経済学者によって数値公式が理論モデル化している。しかしこの方式による経済波及効果計算は複雑であるので、すでに発表されている経済波及効果推計を紹介する。

1. 平成16年度観光客増加による経済波及効果推計

「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されてから、和歌山県内への観光客が増加した。観光客増加が和歌山県にどのような経済的效果をもたらしたかについて、紀陽リース・キャピタル株式会社リサーチ事業部 主席研究員 黒川久生氏が「観光客増加による経済波及効果推計」についての調査報告書を発表しているので、以下は黒川氏の報告書から、経済効果等を説明したい。

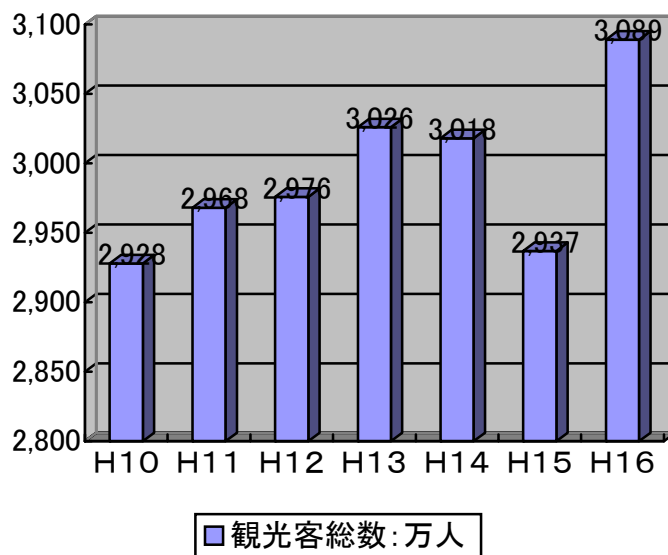
（1） 和歌山県観光客数の推移

和歌山県観光客数の推移については、第1章、表1-1及び表1-2に表示（平成16年観光客動態調査報告書：和歌山県観光振興課）したとおり、平成10年比105.5%、前年比10

5. 2%と15年度に落ち込んだ観光客が、世界遺産登録の16年7月以降に増加している

- ① 平成15年（2937万人）に対する16年の観光客総数（3089万人）・・・152万人の増加。
- ② 平成15年に対する16年の日帰り客数・・・141万人の増加
- ③ 平成15年に対する16年の宿泊客数・・・・・・11万人の増加

観光客の推移



(2) 経済波及効果推計のための前提条件

黒川久生氏は経済波及効果を算出するための前提条件を次の通り設定している。

- ① 経済波及効果の推計は対象業種32部門による分析を行い、二次波及効果までの測定とする。県内経済波及効果分析においては「平成7年和歌山県産業連関表・32部門分類」（和歌山県企画部統計課）を使用する。
- ② 雇用誘発者数の基礎になる雇用係数は、「平成7年和歌山県産業連関表・雇用表」を使用する。
- ③ 平均消費性向は、「平成15年家計調査年報」（総務省統計局）の平成15年和歌山市データ（平均消費性向：73.6%）を使用する。
- ④ 観光客の増加による観光消費の増加額を最終支出額とし、産業連関表の「対個人サービス」に全額投入し、県内自給率を100%とした場合の経済波及効果を推計するものとする。
- ⑤ 観光客数については「平成16年和歌山県観光客入り込み状況について（速報）」により観光客の入り込み客・宿泊客・日帰り客別の延べ人数を取得する。
- ⑥ 観光消費額については、観光客の入込客・宿泊客・日帰り客別の延べ人数に対し、「平成14年観光スポット来訪者調査」（和歌山県観光実態調査報告書ダイジェスト版）の集計値を使用し、宿泊客・日帰り客の実人数を推計した上で、それぞれに対し同集計値の1人あたりの県内観光消費額を乗じて推計する。

入り込み客平均訪問地点数・・・１．９５地点

宿泊客平均宿泊日数・・・・・・・・１．４２泊

(注) 黒川氏は和歌山県の観光入り込み客数については、平成１６年の速報を基に計算している。その後の確定発表の観光客延べ人数とは１万人しか変わらないため、本調査書は速報値での推計とした。

以上の前提条件による観光消費額、実人数は次のとおりとなる。

１) 観光消費額 日帰り客一人あたり観光消費額合計・・・・・・・・４，１５４円

(表８－１) 宿泊客一人あたり観光消費額合計・・・・・・・・２６，９１４円

２) 観光客実人数 平成１６年度・・・・・・・・１，５８５万人

宿泊客実人数・・・・・・・・３８４万人

日帰り客実人数・・・・・・・・１，２０１万人

(３) 平成１６年観光消費総額および経済波及効果の算出

観光客延べ人数・・・・・・・・３，０９０万人

観光客実人数・・・・・・・・１，５８５万人

観光消費総額(表８－２)・・・・１，５３３億円(日帰り客４９９億円、宿泊客１，
０３４億円)

経済波及効果・・・・・・・・２，３８０億円

生産誘発倍率・・・・・・・・１．５５倍

就業誘発者数・・・・・・・・３３，０００人

１５年比１６年の増加実観光客

観光客実人数・・・・・・・・７９万人(１０５．２％)

宿泊客実人数・・・・・・・・８万人(１０２．０％)

日帰り客実人数・・・・・・・・７１万人(１０６．３％)

(４) 平成１６年の観光客の増加分(１５年比)にかかる経済波及効果の推計

観光客延べ増加数・・・・・・・・１５３万人

観光客増加実人数・・・・・・・・７９万人

観光消費増加額(表８－３)・・・・５０億円(日帰り客２９億円、宿泊客２１億円)

経済波及効果・・・・・・・・７８億円

生産誘発倍率・・・・・・・・１．５５倍

就業誘発者数・・・・・・・・１，０００人

表 8-1 観光消費額等一覧表

入込客平均訪問地点数		1. 9 5	地点
宿泊客平均宿泊日数		1. 4 2	泊
日帰り客一人当たり観光消費額合計		4, 1 5 4	円
(内訳)	飲食費	1, 4 5 2	円
	交通費	1, 2 3 1	円
	入場・観覧費	3 7 6	円
	土産・買物費	9 6 7	円
	その他	1 2 8	円
宿泊客一人当たり観光消費額合計		2 6, 9 1 4	円
(内訳)	宿泊費	1 3, 6 7 9	円
	飲食費	4, 0 6 2	円
	交通費	3, 5 5 6	円
	入場・観覧費	1, 6 8 1	円
	土産・買物費	3, 3 6 8	円
	その他	5 6 8	円

資料：「和歌山県観光実態調査報告書」（平成 1 5 年 3 月、和歌山県）

「平成 1 4 年観光スポット来訪者調査」（和歌山県）

表 8-2 H 1 6 年 観光消費額

(百万円)

観光消費総額合計		1 5 3, 2 5 0
(内訳)	宿泊費	5 2, 5 3 9
	飲食費	3 3, 0 3 6
	交通費	2 8, 4 3 9
	入場・観覧費	1 0, 9 7 1
	土産・買物費	2 4, 5 4 7
	その他	3, 7 1 9
日帰り客観光消費総額費		4 9, 8 7 8
(内訳)	飲食費	1 7, 4 3 5
	交通費	1 4, 7 8 1
	入場・観覧費	4, 5 1 5
	土産・買物費	1 1, 6 1 1
	その他	1, 5 3 7
宿泊客観光消費総額		1 0 3, 3 7 2
(内訳)	宿泊費	5 2, 5 3 9
	飲食費	1 5, 6 0 1
	交通費	1 3, 6 5 8
	入場・観覧費	6, 4 5 6
	土産・買物費	1 2, 9 3 6
	その他	2, 1 8 2

表8-3 H15～H16年 観光消費増加額

(百万円)

平成16年に観光客が和歌山県内で使用費したと推測される観光消費額の総計は1,533億円となり、県内総生産(平成14年)の4.6%にあたる額である。

又15年～16年にかけての観光客増加は153万人。観光客増加実人数は79万人。これによる県内経済に与える効果は、観光消費増加額(直接効果)50億円。この数字を産業連関表に投入して経済波及効果を推計すると78億円となる。

平成16年に観光客が増加したことに伴い、1,000人の新しい就業者が発生したこととなる。

平成15年に落ち込んだ県内への観光客であるが、世界遺産効果もあつて、16年には3,000万人台を回復したものの、世界遺産登録関係1市10町の入り込み客については第2章にて詳細説明しているが、平成10年比での観光客総数は6地区で増加したものの、5地区では減少となっている。特に、和歌山県の観光の売り物・名所である、白浜町、那智勝浦町が減少し、世界遺産効果の恩恵をあまり受けていないことが、今後の観光振興対策の課題となろうか。

観光消費総額合計		5,007
(内訳)	宿泊費	1,045
	飲食費	1,342
	交通費	1,146
	入場・観覧費	396
	土産・買物費	944
	その他	134
日帰り客観光消費総額費		2952
(内訳)	飲食費	1032
	交通費	875
	入場・観覧費	267
	土産・買物費	687
	その他	91
宿泊客観光消費総額		2,055
(内訳)	宿泊費	1,045
	飲食費	310
	交通費	272
	入場・観覧費	128
	土産・買物費	257
	その他	43

第9章 和歌山県の観光振興のための課題と提案

1. 遺産登録関連地域へのアンケート結果からの問題点

世界遺産登録を機に、内外に和歌山県及び登録関連地域のPRのための様々なイベントが実施された。このことについては第3章にて紹介したが、今年も引き続いてイベントを行っている地域も多い。効果として、PRができた、入り込み客が増えた、住民の意識が向上した、郷土の再発見になった等の評価が多い。

しかし、地域の観光振興のための、問題点、課題、遺産保存対策、行政への要望等も多々ある。

- (1) 交通アクセス整備、公共交通機関の充実とネットワーク化。
- (2) 文化遺産保存対策。
- (3) 地域に合った観光地づくり（体験型観光、産業観光）。
- (4) 住民の観光に対する意識向上（意識改革）。
- (5) 観光ガイドのスキルアップ。
- (6) 特色ある効果的なPR戦略、情報発信システム。
- (7) 滞在型観光のシステムづくり。
- (8) 民活による観光振興支援づくり。
- (9) 観光車両増加による環境汚染問題対策。

アンケートで寄せられた上記の課題以外に、報告書をまとめるに当たって気のついた観光振興策等も多々ある。

- (10) 和歌山県の観光地としてのあり方・知名度の上げ方（観光客の意識変化と行動変化）。
- (11) 外国人観光客の増加対策。
- (12) 温泉地の活性化（和歌山の歴史ある名湯のアピール）。
- (13) グリーンツーリズム（産業観光・体験観光）のシステムづくり。
- (14) 受け入れ体制（施設、環境、ホスピタリティ、案内、サービス、料理）。
- (15) 観光行政組織の充実（組織・予算・人材・広域連携）。
- (16) 観光従事スタッフの育成（和歌山大学への観光学部新設）。
- (17) 観光土産品・郷土料理の創作支援。
- (18) 地域のイベント支援（専門家によるブラッシュアップ指導）。
- (19) 観光客へのマナー指導。（行政から先ず県民へのマナー向上啓発指導の実施と環境整備）

2. 和歌山県に必要な観光振興対策（提言）

日本の観光は、10世紀初頭に始まった皇族の熊野詣が端緒となるのではないかとわれている。つまり、貴族による社寺参詣が始まりであり、平安時代には西国33ヶ寺巡礼、室町時代に

は四国88ヶ寺遍路が生まれている。このように中世の観光は宗教的な色合いの濃い旅行だった。

これは江戸時代にも受け継がれたが、東海道・中山道などの「五街道」が整備され、各要所に宿場ができ、本陣・脇本陣・旅籠・木賃宿などの宿泊施設が建てられると一般庶民も安心して旅行できるようになった。旅行しやすい条件の向上、生活の余裕ができることによって、江戸や大阪では「講」を組んで指定の観光宿を止まり歩く旅行が盛んとなる。伊勢講、大山講、出羽講などである。

現代の観光形態になったのは、太平洋戦争敗戦後、ようやく経済・社会的復興を遂げた昭和49年の東京オリンピック以降のようである。東海道新幹線の開通、車の普及、道路網の整備、航空便の大衆化と政府による国民休暇村、自然休養村、いこいの村建設と民間ホテルの建設ラッシュによってソーシャル・ツーリズムが盛んとなった。

しかし、バブル期の大型リゾート開発によるレジャーブームはバブル崩壊とともに終焉を迎え、今や観光旅行も人々の志向変化によって多彩な観光旅行が行われている。

現在の観光志向は「美味しいもの探求派」、「自然体験・感動派」、「歴史伝統鑑賞派」、「地域イベント参加派」、「レジャー施設エンジョイ派」、「日常生活脱出派」、「温泉くつろぎ派」、「都会エンジョイ派」、「異文化ロマン派」、「スポーツエンジョイ派」、「自己実現追求派」など多様である。

しかし、観光地として、観光客の入り込みを図るなら、このような動向を看過し、何らかの特色ある対応を心がけないと観光立県としての発展は見込めない。そこで、前述の19項目の和歌山県の観光振興のための問題点、課題等について整理し、所見を述べるとともに改善提案を行いたい。

(1) 和歌山県の観光地としての知名度・魅力度アップ対策

第3章で述べたごとく、世界遺産登録後に実施した「和歌山デステイネーションキャンペーン」はかつてない大規模なものであり、それなりの効果はあった。その一環として行われた和歌山の認知度や来県意向（第5章）では和歌山に來たことがある78%、世界遺産に登録されたことを知っている91%、遺産観光に行きたい99%であり、和歌山にとっては大変好意的かつ著名な県と受け取れる。

しかし、意図しない一般観光地魅力度調査（第6章の株式会社流通情報センター調査）での和歌山の観光地としての認知度は、全国著名観光地108ヶ所のうち、白浜80位、那智・勝浦90位であり、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたことの認知度は103位である。

また魅力度においては、同じく（株）流通情報センターの調査によると、南紀白浜61位、那智・勝浦75位、紀伊山地の霊場と参詣道は80位である。魅力度の高い地域は、京都、沖縄離島部（石垣島、宮古島等）、横浜、鎌倉、箱根、札幌、東京ディズニーリゾート、函館、那覇・首里、小樽、軽井沢等である。反対に魅力度の低い地域は108位がサンリオピューロランド（東

京都多摩市)、107位志摩スペイン村、106位明治村(愛知県)、105位スペースワールド(福岡県)、104位シーガイア(宮崎県)となっている。下位には、かつて全国からの観光客を集めたところもある。そして、20~60歳までの年齢層でのアンケートでは、以外と温泉地が上位に入っていない。別府温泉62位、道後温泉69位、熱海温泉86位、下呂温泉93位、白骨温泉100位、有馬温泉103位・・・である。となると、白浜温泉の61位はもって良と考えるべきであろうか・・・。

とにかく、時代によって移り変わる現代人の多様な観光志向にマッチする売り込み方を考えないと、16年度に増えた観光客の定着化が図れず、またぞろ減少していくのではないと思われる。

認知度を上げるためのPR戦略は、現状のままでは幾らお金をかけても効果はなかろう。(2)以下に述べる対応や環境整備を先ず進めなければならない。つまり、観光地としての受け入れ体制を充実し、魅力をつけてこそ自信をもったPRができ、その効果も期待できるのである。

(2) 観光行政組織の充実(組織・人材・予算・広域連携)

和歌山県の観光振興を画策する機関としては、県商工労働部に「観光振興課」と「観光交流課」があり、総勢24人の職員が配置されている。16年度は世界遺産登録準備もあり。予算は8億4千万円。17年度は5億1千万円(内2億は職員人件費)。内訳は、観光客誘客対策(観光宣伝。パンフ配布等6千6百万円)、観光地づくりプロモーション7千4百万円、世界遺産ウォーキング推進8百万円、国際観光対策(外国人誘致)3千万円、体験観光準備1千5百万円等である。

対前年比40%の予算で、遺産効果を維持する事業を展開する事となる。世界遺産維持・アピール・誘客対策費が少ないようである。

観光事業推進は、一般事務的な業務ではない。芸術・文化・音楽・エンターテイメントに向いた人材が好ましい。正職員になれば、プロデュース、企画に堪能なフリーの人材も良からう。有能な人材委嘱による「専門家チーム」を設置して、ユニークなアイデアを募って事業展開したらいいのではないか。このチームは後述の各地域のイベント指導にも役割を果たしてもらおう。

又、県全域の観光立県を目指すためには、市町村の観光課・観光協会・商工会議所・商工会・飲食組合・旅館組合・旅行社・運輸業者・特産品組合等の連携による統一した事業展開が必要と思われる。

(3) 県下上げての真のホスピタリティの認識と醸成

hospitalityとは「温かくもてなす心、もてなしぶり、厚遇」と訳されている。今や観光業界には日本語的にこの言葉が使われ、ホスピタリティ向上への啓蒙がかまびすしい。しかし、「本当のホスピタリティ」を理解しているのであろうか。

お客をもてなすという、礼儀正しく迎え、丁寧な言葉を遣い、お茶・料理を粗相しないように提供し、にこやかに応答し、お客の印象を悪くしないようにする……。とそれだけでよいのであろうか。つまり、例えをすれば、ホテルに着く、フロントの椅子で部屋割りを待っていると、熱いお茶がでる。これはこれで良いのであるが、その時に「冷たいお茶か温かいお茶、又はコーヒーとどちらがよろしいか」と聞いてくれる方が有り難い。形式的なサービスでなく、お客の立場に立った（ニーズ）サービス、つまり「選べるサービスがホスピタリティ」である。

それと料理においても、予約した値段に応じた「コース料理はみんな同じ」も理解できるが、予約時に、年齢構成、来店回数、男女比、食事の主旨（目的）等を聞いてくれるところがある。食べに行くのに突っ込んだ聞き方をしすぎるのではないかと思われるが、同じ値段のコース料理でも、年齢層、男女比によってその日のメニュー構成が違うのである。又、誕生祝い、栄転祝い、祝賀会、長寿祝いなどによって、その会の主賓に店主からの心づくしが贈られるのである。これも誰が、何のために食事を楽しむのかを配慮したホスピタリティである。もっと具体的に言えば、酒飲みグループにはそれに合う料理、女性だけとなればそれに配慮した料理……。と誰をもてなすのか、対象となるお客の具体的な絞り込みをしてこそ真のもてなしができるのである。

和歌山への観光客に評判の悪いのに「タクシーの接客態度」がよく上げられる。運転手がぶっきらぼうで行き先を云っても返事もしない。言葉遣いが悪い。観光について聞こうと思っても聞きづらい……。運転手自身には悪気はないのであるが、接客訓練を受けていないので、最初からの印象を悪くしている。これは県下全域のタクシーに共通するので、タクシー業界で教育に力を入れてもらい、もてなしの接客サービスの平準化をお願いしたい。

観光関連ヶ所（JR駅、タクシー乗り場、バス乗り場、観光地）での案内板の字が小さいのが多い。子供から大人までやさしい（高齢者・障害者にも）、所謂「ユニバーサルデザイン」を考えた整備のお願いと、歓迎幟の設置、特産品の表示など、観光客が「迎えられている」と感じるような心配りもホスピタリティである。観光立県のためには、県において、県民みんなに機会あるごとに「ホスピタリティ」についての啓蒙が必要である。

（４）交通アクセスの整備

近畿自動車道紀勢線（大阪松原市～三重県勢和村：340km）においては、ようやく平成15年12月に南部まで延伸され、和歌山のR42号の補完道路として、高速道路時代への仲間入りを果たした。しかし、この路線もすこぶる評判が悪い。というのは、行楽シーズンの土・日・祝日には吉備～海南間（10.3km）が極度に渋滞するのである。本年8月のお盆期間では、和歌山～吉備間（下り）で3時間、上り（御坊～和歌山間）では数時間という渋滞ぶりである。この原因は吉備～海南間が片側1車線であるためであり、目下2車線化に向けての工事が始まっているのであるが、早期完成が必要。吉備以南の4車線化はムリとしても、温泉地白浜までの早期延

伸を望みたい。高速道路が渋滞したときは南紀からの車は国道４２号を通過して和歌山に抜けるのであるが、この道路も有田市～海南間が日常の業務車、通勤・生活者車で常時渋滞してネックとなっているため、ここに観光者の車が流入して渋滞に拍車がかかり、不評となっている。

和歌山～橋本間においても国道２４号が唯一の幹線道路であるため、昭和６３年から京奈和自動車道（和歌山市～橋本市～奈良市～京都市）の建設が進められているが、用地買収がうまくいかずに大幅に遅れている。

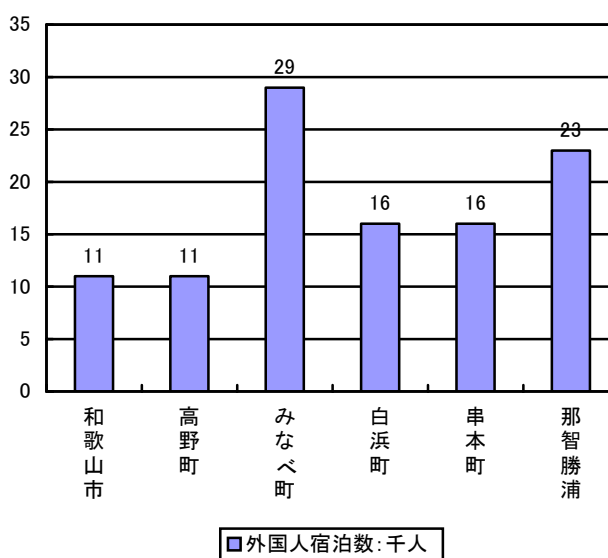
世界遺産に登録となった遺産巡りは、幹線道路、ＪＲ駅から離れた山中が多いため、車利用者以外では不便である。田辺駅、新宮駅には地元バス会社の連絡バスが運行されるようになったが、一巡するには、宿泊しながらか、ハイヤー等の利用となる。ハイカー等には不便であり、交通関係者による遺産巡りの交通連絡網の整備（周遊利便性）が必要である。それ以外に、山間部に縦横に敷設されている主要県道の整備拡幅と接点改良も望まれる。

（５）外国人観光客の受け入れ体制の整備

平成１６年の県観光動態調査報告書では、外国人の宿泊客は１１万人である。

〔宿泊観光客の多い地域〕

- ①南部町 ２９，１７１人
- ②那智勝浦 ２２，６５３人
- ③串本町 １５，７５８人
- ④白浜町 １５，６３６人
- ⑤和歌山市 １０，６５８人
- ⑥高野町 １０，５３０人



注： 「みなべ町」への外国人

観光客が多いのは同町の「南部

ロイヤルホテル」が台湾の観光

社とタイアップして、ツアー客を積極

的に招致、宿泊させていることによる。串本においても系列の「串本ロイヤルホテル」の宿泊による。

観光客の国際収支については、２０００年では観光入国客の収入が３４億ドルに対し、外国への観光旅行での支出は２８８億ドルである。これを世界と比較すると、収入は３１位、支出は４位となる。国際観光振興会「世界と日本の国際観光交流の動向」によると、２０００年出国１７

82万人、入国476万人、2004年出国1683万人、入国614万人である。

国際観光については、2002（平成14）年に小泉総理が海外からの観光客増加対策を政策として取り上げた。2010年に入り込み客を1000万人とする方針である。これに基づき「ビジット・ジャパンキャンペーン」を実施している。2004年の614万人の内訳は、韓国159万人、台湾108万人、米国76万人、中国62万人等であり、70%は東南アジア諸国からである。

台湾からの観光客増加を図っているのが北陸の富山、福井、石川県などである。ここは観光客誘致キャンペーンを現地で行うとともに、チャーター便については県営空港の駐機料を大幅に安くしている。運賃コストが下がれば、旅行社もツアー費用を安くして募集できる。県の収入が減るが、旅館、交通、土産物、飲食の需要が増えれば、経済波及効果があると見込んでの政策である。外国からの観光客を増やすには、行政での受け入れサービス整備も必要であろう。

その他、外国人観光客受け入れのためのサービスとしては次の事項も必要である。

- ①案内板、標識の多言語表示。通訳ガイド（プロだけでなく、地域のボランティアも）の充実。
- ②旅館、土産品販売所、飲食店でのホスピタリティ教育（接客訓練、販売技法）。
- ③外国人用観光パンフの充実。
- ④宿泊施設の防火・地震・津波対策及び病気、けがでの救急対応。
- ⑤環境整備（衛生・清潔感）、バリアフリー化。
- ⑥天気情報、道路情報の受発信体制。
- ⑦宿泊等観光関連諸施設の廉価努力。

外国旅行で宿泊するのに、日本的な一泊二食付きのホテルはない。外国人は日本の旅館に宿泊すると、二食付きとなって割高感を感じる。つまり、食事は当然に摂取するのであるが、「食事付」というのには慣れていない。つまり選択制のないシステムには疑義をもつのである。

外国人客には、素泊まり幾らから、食事は幾らからという曖昧なものでなく、◇□の部屋で幾ら、○◎を食べたら幾らという明確さが必要。また、メニューも自由に選択できるという顧客主体のシステムの取り入れが必要であろう。

又、日本人客相手にも通じるのであるが、日本の旅館は「連泊」をあまり想定していない。1泊目1万円、2泊目8千円、3泊目以降7千円・・・とか、夫婦は2万円、家族4人3万円とか・・・割安感の料金を出せないか。又料理も2日目からはメニューを変えるとかの工夫が必要である。

（６）温泉観光の振興対策

かつては観光地というと“温泉地”であつた。古くは“湯治場”として人々に好まれ、経済的豊かさとともに、団体客の慰楽場としての賑わい場所となった。しかし、高度経済成長期に入ると、テーマパークに代表される近代的・人工的なマス・レジャー施設が全国的に林立した。しかし、それもバブル景気崩壊後の長期景気低迷とともに衰退し、今又、健康増進、保養、治療を目的とした滞在型リゾート地として見直されつつある。

温泉地へのアクセス整備、街並み整備、施設の近代化、共同浴場、野天風呂の設置とともに、クアハウス、温泉保養館、温泉付き療養病院等の建設も増えつつある。つまり、心身の治療を目的とする観光と健康を結びつけた“温泉浴”が増加している。

第４章（観光実態調査結果）で報告したとおり、和歌山県への観光客については、立ち寄り地域で一番多いのは「白浜」（３０．９％）、宿泊地も白浜が一番多い（１５．７％）。

又、和歌山県内で楽しみたい観光としては６３％の人が「温泉」を上げている。

和歌山には全国的に著名（？）な名湯が多い。白浜・勝浦・湯の峰・渡瀬・川湯・龍神・椿等である。しかし、２００４（平成１６）年６月の白骨温泉（長野県安曇村）の入浴剤使用が発覚以来、温泉を取り巻く環境は大きく変わった。週間ポストが報じた偽造温泉キャンペーン記事に端を発して、２４道府県でインチキ温泉が発覚したからである。給湯方法（源泉掛け流しか循環式か）、加水、加温、入浴剤、入れ替え頻度、殺菌方法などが世上の話題にあがるとともに温泉地への不信感が増大した。

今回の問題発生の原因は温泉法の不備、温泉行政の甘さ、温泉経営者の知識不足が根底にある。社会問題となった「温泉の真贋」に環境省も腰を上げ、温泉法の施行規則を改正する方針を打ち出し、温泉法施行規則第６条に定め、脱衣所等に掲示を義務づけしている「温泉成分分析表」に次の４項目が新たに掲示事項となった（平成１７年５月２４日施行）。

- ①温泉に加水している場合は、その旨及び理由。
- ②温泉を加温している場合は、その旨及びその理由。
- ③温泉を循環・濾過させている場合は、その旨及びその理由。
- ④温泉に入浴剤（着色・着香）を混入、又消毒している場合は入浴剤の名称、消毒の方法及びその理由。

これらの掲示に関しては、掲示内容の県知事への届け出義務があるとともに、違反した場合は罰則が適用される。

和歌山県内での温泉法による“温泉認定”は４００ヶ所以上あり、全国的にも温泉数の多いことで知られている。温泉は、施設の開設時に、源泉について行うだけで済む温泉の成分分析は、定期的な再分析の義務づけや湯船での分析に改める方向でも検討されているという。

新しい法律に基づく掲示を励行して、お客の信頼を得るよう努力し、天然温泉湧出の自然の恵みを大いに活かすべきであろう。特に県内には、全国に誇れる「源泉掛け流し」の歴史、由緒ある名湯が多い。“まがいもの”の多い温泉地の中、もっと声を大きく宣伝したらいいのではないか。温泉の湧出があるのは天の恵みである。

といって「温泉」だけでは観光客が来てくれる時代ではない。前述した外国人観光客の受け入れ体制を充実し、行政、地域、業者の力で観光客誘致に尽力すべきである。

(7) グリーンツーリズムの推進

農林漁村での生活体験滞在型観光が最近注目されている。日本の市町村の半数近くは「過疎」地域である。過疎の地域は「都市と交流する事で地域の活性化をはかりたい」と考えている。一方の都市住民も、都会の喧噪から逃れ、自然の中で自然の生態系を見聞し、自然の中で生活してみたいと考えている。イギリス、ドイツを中心に普及してきた農村滞在型余暇観光は、近年の日本にも広がる気配である。

世界遺産に登録された紀伊山地の霊場は深山幽谷の大自然の中にある。今は自然破壊での観光施設づくりは許されない。この自然を観光にどうやって活かすかが課題となる。和歌山には、和歌山ならではの自然が与えてくれる特産品が多い。魚・梅・みかん・桃・柿などである。そして、川・山・海がある。

それらと、歴史的文化遺産をどのように活用するかと云うことになる、グリーンツーリズムの普及が必要であろう。農家を活用した民宿が全国には5000軒もあるという。しかし、今までは農家を活用する民宿には色々な規制があった。人々に食事を提供し、宿泊させるには、旅館業法、建築基準法、消防法、食品衛生法の規制をクリアしないと「業」としての営業はできないのである。

近年になって、規制緩和が進み、県が農家民宿の運営を認める条例を制定すれば、従来の足枷なく営業できるようになっている。和歌山県においても早急に対応してもらいたい。

その後で考えられるのは、熊野古道沿いの古い農家、廃校舎の民宿への転用。又過疎地域全体の「自然村」としての受け入れ施設への活用も考えられる。

しかし、宿泊や飲食施設だけでは、滞在型観光にはならない。そのヶ所にあつた「魅力あるプログラムづくり」が必要である。つまり豊富な自然体験プログラムが必要なのである。キノコ狩り、カブト・クワガタ・蝶獲り、炭焼き体験、木彫体験、木工作、和紙づくり、川魚釣り教室、陶芸教室、梅干しの作り方教室、干し柿づくり教室など、その地域にあつたプログラムが必要なのである。

プログラムは地域の手作りでもいいが、できれば「プロの指導」を受けたものの方がよい。この指導と手配には、人材とお金が必要なので行政に力を入れてもらいたい。同じく指導をし

てもらいたいものに、地域独自のイベントや、歴史的なお祭りがある。これにどのようなストーリーを盛りつけするか、アピールポイント、キャッチコピー、チラシ、ポスター作成などを手助けして「垢抜けた」ものにしてもらおうとともに、参加体験型イベントに仕立てる方策に専門家派遣をしてもらいたい。同じく、郷土料理にしても、田舎料理にしても、盛りつけ方、旬の野菜、草花の付け合わせにしても、プロの指導を仰ぐ方が食べる人により感動を与えるものとなる。都市の人々と地域の交流ができて観光消費が増え、口コミが広がってリピートが増えるには、地域全体の支援が要る。地域住民みんなが観光客を受け入れる心構えができ、体験教室の指導者とならなければならない。道案内もできなければならない。黙って観光客の捨てたゴミを拾い集める忍容も必要であろう。時には、ボランティア語り部となって子供達に村の歴史を説明しなければならない。やはり、体制、システムができるまでに行政のテコ入れと観光団体、業者、商工会議所・商工会等の一致協力が必要である。

これからの観光は3Eが必要条件と云われている。エンジョイ（楽しむ）、エキサイティング（感動、興奮）、エクスペリアンス（経験、体験）である。これらを満たすのには都会型観光でなく、大自然の中にある鄙びた町村でありながら、3Eを満喫できるプログラムを用意したグリーンツーリズムが都会の人々に受け入れられるものと思われる。行政、地域上げてのグリーンツーリズムへの取り組みを望むものである。

おわりに

和歌山県は従来から観光産業による地域活性化を図ってきたが、過去の入り込み客は横ばいか、やや減少傾向であった。

平成16年7月7日に「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産リストに登録されたのを機会に、和歌山県の各地で様々なイベントやキャンペーンが実施されている。

和歌山県支部では、平成17年度のマスターセンター補助事業として「紀伊山地の霊場とその参詣路」が世界遺産に登録された結果、観光産業がどのように変化しているのか、また、今後どのようになっていくかを調査・研究することにした。

今回の調査・研究は、県下の観光客の入り込み状況の推移と世界遺産登録後の変化、同時に、世界遺産登録関係市町の観光に対する取り組みを調査し、課題を抽出し、今後の観光立県としてのあるべき方向性を見出すお手伝いが少しでもできればと考えて実施した。

世界遺産登録を機に、和歌山県及び登録関連地域のPRのための様々なイベントが実施されてき、今年も引き続いてイベントを行っている地域も多い。効果として、PRができた、入り込み客が増えた、住民の意識が向上した、郷土の再発見になった等の評価が多かった。

しかし、地域の観光振興のための問題点や課題が数多くあるのも事実である。

今後この小紙が和歌山県、関係市町村、各観光協会、観光関連業者そして地域住民にとって観光振興に少しでもお役に立てれば幸甚である。

社団法人中小企業診断協会

和歌山県支部調査研究班

中小企業診断士 奥村博志

中小企業診断士 御前明良